

衆生無^{しゅじやうむ}辺^{へん}誓^{せい}願^{がん}度^ど…あらゆる衆生を救う
 煩惱無^{ぼんのうむり}量^{りやう}誓^{せい}願^{がん}断^{だん}…すべての煩惱を断つ
 法門無^{ほうもんむり}尽^{じゆん}誓^{せい}願^{がん}学^{がく}…すべてのの教えを学ぶ
 仏道無^{ぶつどうむじやう}上^{じやう}誓^{せい}願^{がん}成^{じやう}…この上ない悟りを得る

その内容は「たとい我、仏を得んに、十方の衆生、至^{しん}心^{ぎん}に信^{しん}樂^{ぎやう}して我が国に生れんと欲し、乃至十念せん、若し生れずば正覺を取らじ」というもので、至^{しん}心^{ぎん}、信^{しん}樂^{ぎやう}、欲^{じゆく}生^{じやう}我^が国^{こく}の三^{さん}心^{しん}をもつて念^{ねん}仏^{ぶつ}すれば必ず往生するようにさせるといふ誓願で、日本の浄土教では特に重要視され、48願中の王本願と呼ばれている。

「衆生は無辺なれども誓って度せんことを願う、煩惱は無辺なれども誓って断ぜんことを願う、法門は無尽なれども誓って知らんことを願う、菩提は無上なれども誓って証せんことを願う、自他法界は利益を同じくし、共に極樂に生じて仏道を成ぜん」

世の中の生きとし生けるものは数え切れない程ありますが、今その多くの生けるもののお役に立ってゆきたいと思ひます。その為には、まず自分を整えることが大切です。処が悲しいかな現実の私は数多くの煩惱にあえぐ毎日ですので、

まずこの煩惱を少しでも断ち切りたいと思ひます。煩惱を断ち切るには、その方法を教えて下さる法門（仏の教え）を学ばねばなりませんので、多くの法門を知りたいと思ひます。そして、限らない悟り（菩提）への道を、一步一步、歩みつけ、やがては仏の悟りを得たいと願っています。

このような修行によって、自分も他の一切のものも等しく、この利益を受け、共に阿弥陀仏の極樂浄土へ往生し、やがてお悟りの境地に到りましょう。

「生きることは燃えること、仕事に燃え、奉仕に燃え、人に燃えることです。」この言葉はそこでお念仏に燃えて生きなさいとお教え下さっているのです。

私達はややもすれば、火のついていない炭のような存在です。火のついてない炭はそこらに転がしておくのを汚し、手をよごし、衣類を汚すのです。私達も、だからだと生きていると炭と同じ、知らず知らずまわりに迷惑をかけるのです。処が炭を火の中に入れると、部屋を暖め、手をぬくめ、人の心まで温めてくれるように私達もお念仏の火の中に飛び込んだなら、仕事に燃え、奉仕に燃え、人の為に大いに役立つ人間になれるのです。お念仏を称えることは自らの往生の為に、世の為、人の為に成るのです。

合掌